

東北 VALUE SIGHT 宮城



公益財団法人せんだい男女共同参画財団
理事長

木須 八重子 (きす・やえこ)

1978年 仙台市役所入庁。
2010年4月から2012年3月まで仙台市宮城野区長を務め、2013年3月仙台市役所退職後、同年4月より現職。

公益財団法人せんだい男女共同参画財団
宮城県仙台市青葉区中央1-3-1 アエル29F
TEL 022-212-1627 URL <http://www.sendai-l.jp>

『よりよく生き延びる』

— 3.11と男女共同参画センター』
(公財)せんだい男女共同参画財団編
財団職員の震災から約7年間の歩みをまとめました。

●四六判ハードカバー／168頁／
1,300円(税別)／2017年11月発行：
新潮社図書編集室



(公財)せんだい男女共同参画財団では、企業の女性活躍を具体的にサポートする「企業の未来プロジェクト」を展開している。男女共同参画を推進するべく設立された同財団が、東日本大震災発生後に女性参画の必要性を改めて実感したことが契機となり、女性リーダーの育成を推進している。高い参加費にもかかわらず定員を超える申し込みがあり、好評を得ているという。

女性活躍を応援 ～「企業の未来プロジェクト」～ 仙台女性リーダー・トレーニング・プログラム

(公財)せんだい男女共同参画財団は、男女共同参画に関する専管財団であり、仙台市男女共同参画推進センター(「エル・パーク仙台」および「エル・ソーラ仙台」)の運営主体として、市民活動団体や関係機関などと連携・協力しながら、「男女平等のまち・仙台」の早期実現に向けて多面的な事業に取り組んでいる。仙台をはじめ東北の男女共同参画を推進するという意気込みをもって2001年に設立されたものである。

東日本大震災を経験して

2011年の東日本大震災発生後、当財団は「女性の悩み災害時緊急ダイヤル」や避難所の女性支援活動などに取り組み、被災の現地にあって「女性が意思決定の場に参画すること」の必要性を改めて実感することとなった。以降、こうした体験を全国的な会議や仙台で開催された「第3回国連防災世界会議」の場で課題として発信し続けている。

この間、男女平等先進国ノルウェー王国から、東日本大震災によって壊滅的な被害を受けた地域社会の再建において、女性がリーダーシップを発揮するよう力づけ、促すことを目的とした基金の支援を受けることができた。

この基金を活用して「女性が意思決定の場に参画する」ことを目指したさまざまな事業に、これまで以上に着手することができた。その一つが「仙台女性リーダー・トレーニング・プログラム」の開発である。

ノルウェーでは、企業における女性役員を増やすために、ノルウェー経営者連盟(NHO)が実施している「女性役員候補育成プログラム(Female Future Program)」が展開されていることから、当財団ではノルウェーのNHO訪問調査を実施したほか、地元企業へのアンケート調査や経営層・管理職層のヒアリングを重ね、女性管理職層を増やすプログラムを完成させた。

女性が個人で申し込むのではなく、企業がエントリーし、就業時間内にプログラムに参加させること、企業と協議して目標を設定して参加することなど、

女性が組織における役割を自覚し、成果を組織に還元するという「企業の未来プロジェクト」は、当財団がそれまで行っていた講座などと大きく異なる枠組みである。また、参加費15万円も地元の公的財団の主催事業としては破格であることから、女性リーダー育成への投資をする企業がどの位あるのかは、まだこの時点では読み切れないでいた。「女性活躍推進法」施行以前の2015年のことである。

しかし、震災時、企業の中には女性がリーダーシップを発揮し復興や支援活動、社会貢献事業に取り組んだ事例は数多くあり、そうした企業とも出会いながら説明を重ねた結果、初年度の申し込みは募集数を超え、地元の企業の女性管理職を育成することが経済の復興にもつながるという当財団のメッセージも受け止めていただけたと考えている。

「仙台女性リーダー・トレーニング・プログラム」の特徴

プログラムは、リーダー・管理職として必要な知識・スキルを半年にわたって学ぶことになるが、講

「企業の未来プロジェクト」(主催 仙台市、(公財)せんだい男女共同参画財団)の概要

対象：女性活躍の推進に取り組む、取り組みたい
仙台・宮城・東北の企業 20社

プロジェクト参加費：15万円

女性活躍を推進する各種コンテンツ

- 仙台女性リーダー・トレーニング・プログラムの受講(女性管理職・リーダーの研修)
- 社内研修への講師派遣
- 働く女性対象セミナー等への優先受講
- 女性活躍推進に関する各種相談 など

座と講座の間の期間は学んだことを職場に持ち帰って実践し続けることを課題として与えられる。

プログラムの主要な要素は学びを実践し続けることであり、それが「トレーニング」プログラムと名付けたゆえんでもある。

研修期間を通して、異業種交流となるネットワークも毎年生まれている。

また、修了式には、派遣元の企業の経営者や上司の方々に出席いただき、受講の効果をさらに実感していただいている。

「企業の未来プロジェクト」にエントリーすることで、企業には下段にあるようなコンテンツ、社内研修プログラムもいくつか提供しており、このコンテンツの活用も年々増え、プログラムに参加している女性個人の育成にとどまらず、社内における女性活躍への関心と理解が高まっていると感じている。

今後に向けて

「企業の未来プロジェクト」は今年で4年目を迎えるが、スタート時以来定員を超える申し込みがあり、継続して社員を参加させている企業もある。

4月に実施した参加企業の現況調査では、修了者のうち昇任者が28.4%で、そのうちの約6割が管理職として昇進していた。(2015～2017年の参加企業のべ35社、修了者67名、回収率100%)

当初設定していた5年間のプログラムが終了すると100人を超える修了者が誕生することになり、それは、すぐそこまできている。

この100人の女性リーダーの存在は、仙台の企業、仙台の経済にも影響を与える存在となると期待している。

「生産性の高い働き方が社内のロールモデルに

なっている」、「働き方改革のリーダーとしてアイデアを提案し、実践してくれている」など、派遣した企業の声もいただいている。

今後は県内はもとより、東北地域からの企業参加の枠を広げていきたい。

受講者の声

- 自分の行動に誇りと自信を持ち、前を向いて進んでいくこと、社内のロールモデルになる覚悟を決めることができました。(不動産・リース事業 30代)
- 今回築いたネットワークは、人生において貴重な財産。今後もメンバーと意見交換しながら、職場の環境改善を進めていきます。(卸売業 40代)



「企業の未来プロジェクト」研修成果報告